構造化臨床知識学会
設立シンポジウム

構造化臨床知識の PDCA サイクルの実現に向けて

プログラム

日時：2015 年 12 月 12 日（土）　13:00～18:00 終了予定　　（18:15～懇親会）

会場：東京大学（本郷キャンパス）伊藤国際学術研究センター　伊藤謝恩ホール

医療(ヘルスケア:保健・医療・介護)は，社会にとってなくてはならない社会技術といえます．医療を社会システムとして設計・実現するための，臨床知識基盤の構築と，それに基づく実践適用の実現を，学術組織として行う組織体の必要性を以前から考えてきました．始まりは「見える化（可視化）」でした．無形の医療(ヘルスケア:保健・医療・介護)を可視化しないと問題特定・問題解決ができません．より効果的・効率的に安心して，人々が知識の再利用をできるようにするために「可視化・構造化・標準化・IT 活用」というステップを考え，研究をすすめてまいりました．2004 年から 12 年間に及ぶ研究の中で，多数の標準構造とその構造を活用した標準コンテンツが整備され，必要なシステムアプリケーションが開発され，実臨床での運用が開始されました．分析評価のための方法論開発もすすめ「日常臨床基盤の構築」と「その改善をする仕組み」も研究してきました．

複雑な臨床プロセスを対象とするコンテンツの維持･改善･新規開発，ガイドライン開発との関係性強化，臨床分析手法の開発等，のニーズが明確となっています．次なるフェーズ「持続的成長」を担保するためのステップが必要となりました．現段階で，医療の社会システム化を推進する重要なひとつの核を構築できていると考えられます．

医療を社会システムとするためには，他にも重要な核となる研究領域があるはずです．それらとのジョイントも，将来的には検討できるものと考え，まずはわれわれで構築してきた，このひとつの「核」の成長を推進するための学会活動を開始したいと考えます．

PCAPS 研究会代表：水流聡子

主催：東京大学大学院工学系研究科　医療社会システム工学寄付講座
PCAPS 研究会
後援：一般社団法人ヘルスケアイノベーション研究開発センター，PCAPS－IMT コンソーシアム
研究助成：　平成 27 年度厚生労働科研地域医療基盤開発推進研究事業（中山班）
平成 27 年度科学研究費助成事業　基盤研究(B)（作田班）
平成 27 年度国立がん研究センター研究開発費（加藤班）
科学研究費補助金（基金）　挑戦的萌芽研究（水流）

13:00-13:30

Ⅰ　学会化の経緯と今後の計画　　水流聡子（東京大学）

13:30-14:15(各 15 分)

Ⅱ　研究発表:診療ガイドライン・臨床分析　　座長:中山健夫(京都大学)

- 診療ガイドラインと PCAPS の連携による医療の質改善の可能性　　中山健夫(京都大学)
- リンパ浮腫:リンパ浮腫の治療効果調査の概要及び解析状況について　　吉原雅人(トヨタ記念病院)
- 手術:手術室 PCAPS を使用した局所麻酔手術における臨床分析　　成松慧(飯塚病院)

14:20-15:20(報告 20 分・ディスカッション 40 分)

Ⅲ　パネル:質評価・改善　　座長:若尾文彦(国立がん研究センター)

- 報告:がん診療体制の質評価・改善支援システム　　水流聡子（東京大学）
- パネルディスカッション
  - パネルリーダー:若尾文彦(国立がん研究センター)・水流聡子(東京大学)
  - パネリスト:飯塚悦功（東京大学)、名取良弘(飯塚病院)、青儀健二郎(四国がんセンター)、羽藤慎二(四国がんセンター)、吉岡慎一(兵庫県立西宮病院)、小口秀紀(トヨタ記念病院)、秋山聖子(仙台医療センター)、塚本憲史(群馬大学医学部附属病院)、嘉和知靖之(武蔵野赤十字病院)

～・～

15:20-15:30　休憩(10 分)

～・～

15:30-16:30(発表各 10 分・ディスカッション 20 分)

Ⅳ　パネル:実現・実装・連携　　座長:伊藤弘人(国立精神・神経医療研究センター)

- 発表:禎心会病院　　伊東敏弘(禎心会病院)
- 発表:大久野病院　　進藤晃(大久野病院)
- 発表:聖マリア病院　　荒木昭輝(聖マリア病院)
- 発表:飯塚病院　　名取良弘(飯塚病院)
- パネルディスカッション
  - パネルリーダー:伊藤弘人(国立精神・神経医療研究センター)・水流聡子(東京大学)
  - パネリスト:伊東敏弘(禎心会病院)、進藤晃(大久野病院)、荒木昭輝(聖マリア病院)、名取良弘(飯塚病院)

～・～

ポスターセッション準備(5 分)

～・～

『医療の質安全保証に向けた臨床知識の構造化（４）
患者状態適応型パス［PCAPS の活用と臨床分析］』(日本規格協会)　本体価格：5,500 円
水流聡子・飯塚悦功・棟近雅彦監修　患者状態適応型パスシステム研究会編著

16:35-17:45

Ⅴ　臨床知識の構造化：ポスターセッション（ラウンド形式，1領域質疑込 10 分）

※ポスターセッション会場は、会場を出た廊下になります。座長の方・発表者は開始 10 分前にはお集まりください。

ストリーム A　座長 ： 小口秀紀（トヨタ記念病院）

1）がん質評価指標開発班：院内 WS・地域 WS の方法論（愛媛県および四国がんセンターでの事例）
青儀健二郎（四国がんセンター）

2）がん薬物療法：PCAPS がん薬物療法領域のこれまでの取り組み 秋山聖子（仙台医療センター）

3）リンパ浮腫：リンパ浮腫の診断および発症予測を目的とした婦人科癌手術前後での経時的下肢周囲径の測定
田野翔（トヨタ記念病院）

4）周産期１：周産期領域の PCAPS 実装 母体管理・新生児管理コンテンツ
吉原雅人（トヨタ記念病院）

5）周産期２：愛知県西三河北部医療圏における妊娠リスク自己評価表を用いた分娩施設の地域連携
田野翔（トヨタ記念病院）

6）循環器内科：ガイドラインを活用した動脈硬化性 心血管病管理 盛重邦雄（松山赤十字病院）

7）小児科：PCAPS 川崎病コンテンツ開発 藤原優子（東京慈恵会医科大学附属病院）

ストリーム B　座長 ： 名取良弘（飯塚病院）

1）リハビリ１：リハビリ介入の標準化の取り組み　基本動作の獲得 井手睦（聖マリア病院）

2）リハビリ２：リハビリ介入の標準化の取り組み　嚥下障害 井手睦（聖マリア病院）

3）手術：手術室 PCAPS 活動の概要 河野しのぶ（飯塚病院）

4）栄養：栄養・食事に関する臨床知識の構造化の取り組み
道脇幸博（武蔵野赤十字病院）・大森美保（埼玉医科大学）・長谷川由美（松戸市立病院）

5）褥瘡：褥瘡管理の標準化に向けて　- ガイドラインを活用した局所管理 - 大森美保（埼玉医科大学）

6）看護：看護ナビコンテンツの活用と効果 梶原優子・野見山由美子（飯塚病院）

7）精神科： PCAPS データを用いた措置入院患者に実践している医療の実態調査
中西清晃・東川貞男・竹澤翔（石川県立高松病院）

ストリーム C　座長 ： 進藤晃（大久野病院）

1）回復期実装：回復期リハビリテーション病棟看護部門における PCAPS 実装 森松靜（大久野病院）

2）認知症：認知症診療構造図の開発 谷崎浩一（東京大学）

3）在宅看護：在宅看護コンテンツの開発と実装 佐野けさ美（日本看護協会）

4）介護１：終わりが見えず非効率な介護の仕事を改善したい！
村岡裕（依田窪福祉会）・保科美里（デイサービスセンター長門）

5）介護２：介護 QMS モデル構築とその効果による各分野における質の向上と整合性
齊藤日出雄（みまき福祉会）

6）介護３：特別養護老人ホームにおける介護業務の標準化（食事場面に着目して）
藤井謙介（こうほうえん）・渡部祐一（特養うきま幸朋苑）

7）介護４：介護事業におけるケアコードの検討
大塚芳正（美芳会）・溝口里実（在宅介護支援センター風の杜）

17:50-18:00

Ⅵ　学会化に向けて

中山健夫（京都大学）・若尾文彦（国立がん研究センター）・伊藤弘人（国立精神・神経医療研究センター）

閉会

【シンポジウム会場】
本会場・ポスター会場　：東京大学本郷キャンパス　伊藤国際学術研究センター　伊藤謝恩ホール
懇親会会場：カポ・ペリカーノ（医学部研究棟 13 階）

シンポジウム運営組織

代表	水流聡子（東京大学）	
運営 スタッフ	＜PCAPS 事務局＞ 下野僚子（東京大学） 谷崎浩一（東京大学） 康明淑　（東京大学）	＜学生スタッフ＞ 高尾璃加　（東京大学修士課程） 仮屋崎真希（東京大学修士課程） 鈴木悠人　（東京大学修士課程） 安藤岳洋　（東京大学工学部） 野原珠華　（東京大学工学部） 三瀬義博　（東京大学工学部）

問い合わせ先：
PCAPS 事務局
E-mail：Office_PCAPS@umin.ac.jp
TEL：03-5841-7301 FAX：03-5841-7276
本研究事業 HP：http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPS は各種特許申請済みです。